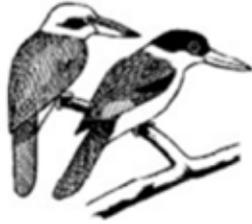


<環境省自然環境局・同時発表>



(公財) 山階鳥類研究所

〒270-1145 千葉県我孫子市高野山115
 電話：04-7182-1101 FAX：04-7182-1106
<http://www.yamashina.or.jp>



カムチャツカ半島で繁殖したミヤコドリが日本に渡来したことが カラーフラッグの調査により初めて判明しました

- 2019年9月25日に、刻印付きのカラーフラッグ（左すねに黒・黄色のフラッグ、刻印T6）と金属足環（右すね）を装着したミヤコドリが千葉県船橋市の三番瀬干潟で1羽観察され、引き続き10～11月にも観察されています。
- 2019年9月27日に、刻印付きのカラーフラッグ（左すねに黒・黄色のフラッグ、刻印T7）と金属足環（右すね）を装着したミヤコドリが伊勢湾西岸の三重県津市の安濃川河口で1羽観察され、この個体は9～10月にかけて、同市内の雲出川河口でも観察されています。
- カラーフラッグおよび金属足環の情報をもとに問い合わせた結果、これらの個体は、2019年7月15日に、ロシア連邦自然資源環境省全ロシア環境保全研究所のドミートリー・ドロフェーエフ（Dmitry Dorofeev）主任研究員によって、カムチャツカ半島西岸のハイリュゾヴァ・ヴェロゴロバヤ河口（57.07N,156.69E）でまだ飛べないヒナの状態のときにカラーフラッグを装着された3羽のうちの2羽であることがわかりました。
- 日本に渡来するミヤコドリの繁殖地や渡りのルートはこれまで不明であり、今回、カラーフラッグ等を装着された場所が繁殖地と判断できることから、今回の観察によって、日本に渡来するミヤコドリの繁殖地の一カ所が明らかになりました。

● 千葉県に渡来した個体（左すねに黒・黄色のフラッグ、刻印T6；右すねに金属足環）

観察地：千葉県船橋市三番瀬干潟

観察日・観察者：

2019年9月25日 田久保晴孝氏

2019年10月27日 駒形治己氏

2019年10月30日 本家信秋氏

2019年11月13日 伊東紘氏

● 三重県に渡来した個体（左すねに黒・黄色のフラッグ、刻印T7；右すねに金属足環）

観察地：三重県津市安濃川河口

観察日・観察者：

2019年9月27日 Katsuta K. 氏

観察地：三重県津市雲出川河口

観察日・観察者：

2019年9月28日 宮越和美氏

2019年10月16日 片山賢一氏



今回のミヤコドリの足環装着場所と渡来地

▼ 千葉県に飛来した個体（左すねに黒・黄色のフラッグ、刻印 T6；右すねに金属足環）



2019年9月25日千葉県船橋市三番瀬 田久保晴孝氏撮影

▼ 三重県に飛来した個体（左すねに黒・黄色のフラッグ、刻印 T7；右すねに金属足環）



2019年9月27日三重県安濃川河口 Katsuta K. 氏撮影



2019年11月13日千葉県船橋市三番瀬 伊東紘氏撮影



2019年10月16日三重県雲出川河口 片山賢一氏撮影



2019年7月15日ロシア・カムチャツカ半島ハイリュゾヴァ・ヴェロゴロバヤ河口（足環を装着した際の写真）
ドミートリー・ドロフェーエフ氏提供



2019年7月15日ロシア・カムチャツカ半島ハイリュゾヴァ・ヴェロゴロバヤ河口（足環を装着した際の写真）
ドミートリー・ドロフェーエフ氏提供

ミヤコドリとは

学名 *Haematopus ostralegus*

チドリ目ミヤコドリ科 全長 45cm

ミヤコドリはおよそハシボソガラスぐらいの大きさの水鳥で、羽色は黒と白で、太くて長い赤いくちばし、ピンクの足がよく目立つ。海岸や河口の干潟や砂浜、岩の多い海岸などに生息し、主に二枚貝を食べる。ユーラシア全体に不連続に繁殖分布し、冬はアフリカ大陸から南アジア、中国南部などの沿岸に渡って過ぐす。日本では全国の海岸で旅鳥または冬鳥で、従来は稀だったが、近年、東京湾と伊勢湾を中心に渡来数が増加している。東京湾奥部の千葉県の上総干潟では、1980年代後半から群れが観察されるようになり、近年は300羽を越える個体数が越冬するようになった。伊勢湾西側の海岸では2000年以降増加し、近年は約80～100羽程度が毎年観察されている。

なお、伊勢物語などの文学に登場する「都鳥」は、本種とは別の鳥であるユリカモメ（チドリ目カモメ科）とされている。

鳥類標識調査と

カラーフラッグ（フラッグ）

鳥類標識調査は、鳥類に足環等を装着して放鳥し、再捕獲や観察によって情報を収集、解析することにより、鳥類の渡りの実態や生態を明らかにし、鳥類の保全施策やそのための国際協力の推進に役立つものである。日本では、山階鳥類研究所が環境省の委託を受けて実施しています。

カラーフラッグは、シギ・チドリ類などの脚に装着するプラスチック製の足環の一種で、前ページ写真のように「旗」状の構造がついています。場所ごとに色の組み合わせを変えて使われ、文字や数字も刻印される場合もあり、双眼鏡や望遠鏡による観察でどこから飛来したかを確認できます。鳥の体に負担にならない形状と重量に設計されています。

カラーフラッグの野外における観察記録の収集は、国内外のバードウォッチャーの方々の協力により、これまで寄せられた多くの情報により、日本に渡来するさまざまな鳥類の移動経路が少しずつ解明されてきています。

この件についての問い合わせ先

※写真のデジタルデータをご希望の方もお問い合わせください。

千田万里子 山階鳥類研究所保全研究室専門員

電話：04-7182-1107

eメール：senda@yamashina.or.jp

平岡考 山階鳥類研究所広報コミュニケーションディレクター

シオンディレクター

電話：04-7182-1101

eメール：hiraoka@yamashina.or.jp